

令和4年1月  
発行：依田窪老人保健施設  
広報編集委員会  
〒386-0603  
小県郡長和町古町 3365-5  
TEL：0268-68-0281  
FAX：0268-68-0283

## 新年のごあいさつ



施設長  
石橋 久夫

新年明けましておめでとうございませ  
利用者の皆様、そして地域の皆様方のご  
多幸を心より祈念申し上げます。



おたや祭山車 桜町第5場  
鎌倉殿の13人 那須与一「平家の扇を射る」の場

この2年間、コロナ問題で世界中が混  
乱に陥り、その中で重症化し命を落とさ  
れた方も大勢おられます。心よりご冥福  
をお祈りしたいと思います。諸外国より  
オミクロン株の感染が広がり、国内でも  
第6波がきており、油断できる状況では  
ありません。我々にできることを引き続  
き守り続けていくしかなさそうです。

『理想の老健施設いこいをめざして』  
平成14年から、老健いこいの施設長を  
兼務し、岡村事務局長と二人三脚で、理  
想の老健施設をめざして努力してしまし  
た。二人が退任するにあたり、その足跡  
を振り返ってみたいと思います。

「3つの目標（理念の実践、利用者満  
足、職員満足）について」  
①当老健の理念は「在宅復帰と在宅支援」  
です。全職員の協力のもと、一人でも多  
くの利用者に生活機能改善のための看護  
介護、リハビリを提供し、少しでもいい  
状態（特に移動、排泄）にして在宅に戻  
れるように、そして在宅に戻ったあとも、  
短期入所や通所リハビリを利用していた  
だきながら、少しでも長く家族と共に幸  
せに過ごせるよう努力してきました。

②老健の使命の一つが「利用者満足」で  
す。そのために、「全人的ケア、全人的リ  
ハビリ」という大きなテーマを掲げ、身  
体機能や認知機能が低下している、お年  
寄りの魂と尊厳を大切に支えながら、全  
員が笑顔と優しさのもと、心のこもった  
ケアやリハビリを提供してきました。結  
果として、職員の熱い想いが伝わり、利  
用者一人一人に、自らの存在が大切にさ  
れているということを実感していただき、  
それが感謝の心につながっています。

③3つめの目標が「職員満足」です。就  
任当時最大の難問が、職員の対立・不和  
でした。これを解決すべく、聖徳太子の  
十七箇条の憲法の第一条である「和を以  
つて貴しと爲す」すなわち「和の精神」  
を心のあり方の基本に据え、職員相互の  
助け合いや協調のもとに相互の信頼関係  
の強化をめざしてきました。結果的にス  
トレスの少ない職場になっています。私  
も現在では、職員一人一人が優しい家族  
の一員のように感じています。

「ターミナルケアについて」  
私も30年以上にわたって、在宅での看取  
りに取り組み、末期癌の患者さん中心に  
300人近い方を在宅で看取ってきました。  
私のテーマは「安らかな尊厳ある死」を  
実現することになりました。現在は、家  
庭介護力の低下に伴い、在宅での看取り  
が困難になりつつあり、老健いこいが地  
域での看取りの場として重要な位置を占  
めています。多くの利用者には元気で家  
に帰っていただくよう努力していますが、  
一方で、高齢で、生きようという気力も  
弱まり、食事も食べられなくなると心身

ともに衰弱されていくお年寄には、決し  
て無理な延命をめざすのではなく、人生  
に対する満足や感謝の気持ちなどを大事  
にしていたりしながら、ご家族の皆さん  
と共に、看護、介護、リハビリなど他職  
種で協力しながら、少しでも「安らかな  
尊厳ある看取り」を実現すべく努力を重  
ねています。結果として、家族の皆さん  
には、いい看取りができたと感じてい  
ただいています。

平成14年からの20年間、私と事務局長  
共々、地域の皆さんには大変お世話にな  
り、また多大なご支援をいただいたこと、  
心から感謝申し上げます。本当にありが  
とうございました。今後とも老健いこい  
へのご支援をよろしくお願いいたします。



いきいきサロン（介護予防活動の様子）

# ほっと通信

老健いこいには、医師、看護師、介護員、理学・作業療法士、管理栄養士、支援相談員と多職種が勤務しています。このコーナーでは各職種からいろいろな情報を発信いたします。

## 「人生夢会議の取り組み」

### 最期までその人らしく……

Aユニット サブリーダー 清水絵里衣

いこいでは、令和2年7月より、『人生夢会議』という会議を始めました。これまでの人生を職員と振り返り、これからの人生を豊かに過ごしていく為に、「生きる」事や「お迎え」について、ご利用者とご家族、多職種（医師、看護師、介護士、リハビリ、支援相談員）等で話し合いを持っております。コロナウイルスの影響により、定期的に行えない状況もありますが、ご家族の協力を得ながら残りの人生をその人らしく過ごせるよう、趣味や特技、今までの人生で大切にしてきたことや、やり残したこと、これからの人生でやってみたいこと、人生最期を迎えるにあたっての希望や思い等を共有しながら、日々のケアや生活リハビリに活かしていけるよう取り組んでいます。



（事例紹介）

『人生夢会議』を行い、気づきが生まれケアに繋がった事例を紹介します。

A様は、入院を期に体力、身体機能の低下により生活に意欲が持てず日々の生活で悲観的な言動が見受けられるようになりました。今まで自宅内の伝い歩きの維持を目標に支援していましたが、自宅、施設での生活の様子から本人は痛みや体力低下等の状況から「歩きたくない」という思いがあり、歩行維持を目標とすることがストレスになり、悲観的な言動の一つの原因となっていることが分かりました。その後、ご家族と相談しながら自宅と同様に本人の希望に添って車いす移動に変更したことにより負担がなくなり笑顔が増えました。また、今までお茶会に出てこないこともありましたが、お茶会の時間に趣味の手作業等の機会を持つことで声掛けをしなくても自分からお茶会に車いすを自走して参加されるようになりました。

ご家族からも「この会議がなければ本人がどう考えて何を伝えたいのか聴くことはなかった。とても有意義だった」とお言葉を頂きました。『人生夢会議』では、今まで知らなかったご利用者の事や思いを知る事ができます。また、ご家族にとってもご本人の人生を振り返り思い等を確認できる良い機会だと感じました。

これからもご利用者、家族の思いに近づけるよう、『人生夢会議』の話し合いの場を大事にし、多職種連携を行い日々のケアやリハビリに繋げていきたいと思えます。

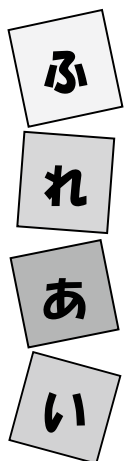
## 地域貢献活動

いこいでは地域貢献活動の一環として、令和2年11月から長和町社会福祉協議会と連携し、「いきいきサロン」やにこにこ会の場へ出向き介護予防活動をしていきます。活動内容としては、介護職員による嚙下体操、リハビリ職員によるコグニサイズ（体を動かしながら頭を使う運動）を紹介し、一緒に体操等を行い、自宅でも続けて頂けるよう活動を行っています。コロナ禍で予定通り活動できない状況もありますが、今後も地域の方に対してもお力になれるよう取り組んで参りたいと思えます。



今年も昨年同様にコロナ禍のため、充分なおもてなしはできませんでしたが、職員によるピアノで馴染みのある曲の演奏や手話ダンス等を身振り手振りで一緒に行いました。限られた時間でしたが楽しい時間を過ごすことができました。

**忘年会**  
（入所12月16日開催）



## ★ 編集後記 ★

新年明けましておめでとうございます。

コロナ禍の中で不自由な生活が続いていますが、みんなで力を合わせ感染症に打ち勝ち、今年が早く穏やかな良き年となることを心から願います。（編集委員）